

学びの創造

震災から4カ月が経ち、暑い夏がやってきました。体調に気をつけながら節電につとめ、東北の復興を願いましょう。今号では、7月から始まった教員採用試験と、センターが行った調査研究の報告をします。

教員採用試験 はじまりました

7月に入り、教員採用試験シーズンが始まりました。今年の採用試験は、昨年までとずいぶん変更点があります。

一つは、関東甲信越の試験日が例年より一週早まり、北海道・札幌市の試験日程と重なったため、併願できなくなりました。二つは、震災の影響で福島県の採用試験が取りやめになり、隣の宮城県・仙台市の倍率が一気に上昇しました。そしてみなさんご存知のように、秋田県の採用試験に小中高の免許を持っている人のための採用枠ができました。

小中高の全免許を取得することができるのは、国公立の教員養成系大学・学部だけです。秋田県でいえば、秋田大学教育文化学部学校教育課程しかありません。その免許取得者を対象に枠を設けるといことは、何を意味しているでしょう。秋田県からのメッセージにいかに応えるかが大学に問われています。どちらにしろ、今年の採用試験を受けるみなさんは、夢の教職生活まであと少しです。応援しています!!

今年度の様々なセミナー・学会

電子黒板の活用 FD 教育文化学部 3-255

7月21日(木)15時00分～16時30分

まなびオープン研修会 60周年ホール

7月23日(土)13時00分～16時30分

日本教育方法学会第47回大会

10月1日(土)～2日(日)

日本ブリーフサイコセラピー学会大会

11月3日(木)～5日(土)詳しくは第53号

日本科学教育学会研究会

12月10日(土)教育文化学部 3-255 教室



校内授業研究に関する調査プロジェクトの報告

全国学力・学習状況調査において、秋田の子どもたちは4年連続好成績をおさめました。その要因は様々挙げられていますが、その一つとして、先生方同士による校内授業研究が充実していることが指摘されています。

本センターでは、秋田県の学校における校内授業研究や事後検討会の特徴を探りたいと考え、2010年度に全県の教師を対象としたアンケート調査を行いました。

右の表は、その一部です。これは、先生方にこれまで参加した中で「学びの多かった研究会」の特徴を記述してもらい、それを分類したものです。全校種の先生方に共通して「研究性」を最も重視していることがわかりました。また、校種によって重視する視点が異なる部分もあり、小学校の先生は「相互性」、中学校の先生は「即時性」、高校の先生は「研修性」を重視していることが明らかになりました。この他にも、小中高の先生方によって、様々な点で意識や学校文化に違いがみられました。

今後も、教育実践研究支援センターとして、先生方や学校と一緒に教育実践を研究していきますので、ご要望やご意見をお寄せください。秋田発の教育研究プロジェクトを立ち上げましょう。

	中カテゴリ	小学	中学	高校
相互性	少人数, ワークショップ, 体験的, 事後検討会の意見が活発	19.6 (294)	14.8 (147)	14.9 (98)
研究性	協議のテーマが明確, 学術学会, 郡市の研究会, 県内外の研究会	27.0 (404)	21.6 (214)	23.1 (152)
新規性	提案がある, 多角的な教材研究, 専門外の教科・領域, 他校種	7.9 (118)	13.5 (134)	14.9 (98)
即時性	すぐに活かせる, 同教科, 同学年部, 実践例・失敗例を持ち寄る	8.6 (129)	15.2 (151)	9.7 (64)
実践性	授業参観がある, 良い授業, ベテラン・若手の授業, 子どもについて語る	6.5 (97)	5.6 (56)	7.3 (48)
切迫性	自分が授業者, 自分・自校の課題と関連, 研究指定, 自ら進んで参加	9.6 (144)	9.4 (93)	5.0 (33)
研修性	行政研修, 的確な指導助言, 具体的な改善点, 建設的, 外部指導者	11.9 (178)	11.3 (112)	16.7 (110)
継続性	指導案の事前検討, 2・3年の積み重ね, 日頃からの授業参観	3.4 (51)	3.1 (31)	3.0 (20)
他	全てに学びがある, ない	5.5	5.4	5.2
	計 (N = 3146)	1497	992	657